



法人よつば たより

No.18

発行：社会福祉法人よつば ☎04-7199-7931
 発行日：2022年 9月 1日
 ホームページ：<http://www.kashiwa-yotsuba.jp>

☆ご挨拶

・法人よつばが主催する啓発講演会「障害者の方や家族が、地域で暮らしやすい社会とは」と題するお話が九月三日朝九時半から、アミューゼ柏ホールで開催されます。講師は、岡田病院の岡田先生です。岡田先生は子どもや思春期の人と、その家族の治療・相談をされている方です。どうぞお出かけください。

・今年の秋十一月を目標に、1Kタイプのグループホーム(定員五名)を柏市逆井地区に増設します。今回は、女性の方たちの入居を予定します。建物と入居概要を説明させていただきますし、チラシをファックスで送ることも可能です。ご連絡をお待ちします。

・法人よつばの開設から二十二年を迎えるため、十一月二日の午後、アミューゼ柏ホールで、記念講演会として「ひきこもりの方への支援」をテーマに、認定NPO ニュースタートのスタッフ久世氏を迎える予定です。間もなくチラシも準備できますので、関心のある方は、事務局までお問い合わせください。右記の法人は、市川市

を拠点に活動され、その働きがマスコミでも紹介されています。

☆生活介護事業「まーる沼南」が正式にオープンしました

柏市大津ヶ丘三丁目、二百七十七㎡(六十五坪)の平屋建てを用いて、就労継続支援B型「青い鳥」との多機能型支援事業所として開設されました。すでに体験利用も送迎も実施しています。

利用を希望されるご本人や、相談支援専門員と一緒に、見学をお願いいたします。体験利用も歓迎します。利用希望の方やご家族や相談支援専門員の方たちからの、問い合わせを期待します。

☆障害者の体験や思い



・柏市在住 ADさん

私が統合失調症を発症したのは、社会人となったときです。大学では工学部でしたので、就職をしてその分野に配属されると思っていました。実際は営業部に配属されました。ストレスを感じながらも三年間は一生懸命努力しました。しかし夜眠れず、疲れも取れず、ついに会社に行けなくなりました。その内幻聴が聞こえだし、不安に

なつて家族と相談して精神科を受診しました。結果、統合失調症と診断されました。先生から学生時代のことを質問され、思い返してみると、こだわりが強かったり、人間関係が苦手だったり、神経質だったりして、ストレスをため込みやすい性格だったことに気づきました。しかしその分、学校の成績は良かったし、忘れ物などはありませんでした。

今思うと、営業の仕事は不向きであったため、配属の変更を強くお願いしなければ、発症せずに済んだかもしれません。小さい時から自分の思いをはっきり言えなかったことが良くなかったと思います。デイケアや病院で出会った人には、「自分の思いはちゃんと言うこと」を勧めています。若い頃は、気分の変調が大きく、苦しみました。六〇歳近くになると、落ち着いてきました。今は仕事へのプレッシャーもなく、自分なりに過ごしています。家にばかりいないようにと、担当医にも言われていますので、デイケアや音楽の趣味を楽しんでいます。生活費は、障害者厚生年金と両親が残してくれた預金を使っています。

☆家族の思いと願い

・柏市在住 ABさん

(前回に続けて、息子のことをお話します。)

骨折からの足と腕のリハビリは、とてもつらくて痛かったようです。あまりの痛さに、病棟に響き渡る程の大声に、看護師さんが飛んできたこともありました。しかしリハビリを止めるとは言いませんでした。ただ治りたい一心だったのだと思いますし、息子の我慢強さも知りました。先生は、「我慢しなくても良いから」と、励ましてくださいました。

ある日のこと、息子は担当の精神科医に「私の病気は何ですか」と聞いたようです。先生は、統合失調症だと答えられました。そのことを私は後で知りました。本人は、動揺することなく受け入れたようです。私はそのことを知って、息子と共に家族教室に参加するようになりました。息子の病気を理解したいと思ったからです。時間が経つにつれて、知りあつた人が次々に退院していきました。ある時二人で散歩に、ホールに行つたとき、かつて保育園でお世話になった先生にバッタリと出合い

ました。「どうしたの」と声を掛けられました。息子は黙つたままでした。返事のしようが見当たらなかつたのでしよう。また、リハビリ室でよく顔を合わせていた先生から声をかけられた時も、返事はしたものの無感情で無表情でした。早く退院したい思いが強く、精神的にもつらい時期でした。

その後入浴ができるようになり、元気が戻つて、顔にも笑顔が浮かぶようになって行きました。次第に入浴もスムーズにできるのが嬉しいことでした。この頃になると、歩行器で歩けるようになりました。言われなくとも練習をしていたと息子や看護師さんから後に聞きました。ただ時々つらかつたのは、自分なりに頑張っているのに、「もつと頑張れ」と言われた時です。むすこは、もう一度歩けるようになれるか不安だったようで、「本当に歩けるかな」と不安と焦りを感じていました。それでも、希望を捨てず階段の上り下りへとリハビリを続け、ついに退院の目処が立つてきました。(続く)

「当事者会」のご案内

発達障害者の家族会は、開設から約四年、当事者会は約一年に開催しています。毎月定期的な集まりを持つていますが、必要性の高さと共に宣伝不足も感じています。

お互いの最近の様子を話すこと、得た情報を紹介すること、今悩んだり心配していることを相談することなどが中心です。発達障害の情報量は多く、私たちを混乱させることがあるため、誤解や過剰に反応しないことを学んでいます。

※集まりの紹介

・家族会 毎月第二土曜日朝十時から、初石公民館にて

・当事者会 毎月第四日曜日午後一時から、初石公民館にて

・問い合わせ 勝本まで

090-3696-1589

☆法人の事業案内

・就労継続B型 「よつば工房」(柏がんセンター近く)と「青い鳥」(大津ヶ丘)は、それぞれ定員四十人です。

・生活介護 まーる沼南 送迎あり、心と身体のリフレッシュや余暇活動や就労活動の作業を計画。

・地域活動支援センターⅢ型「クローバ柏」、柏警察署の近くにあり、毎

日のプログラム活動、就労準備など。

☆短文メモ

・一九四一にブロイラーという精神医学者が分析した結果として、三百人以上の患者たちを二〇年以上追跡した結果として、次のことが明らかとなった。およそ二五%から三〇%の人は治癒、三五%から五〇%の人は軽症化、残りの二〇%ほどが慢性化する結果となった。

・SSTの理論。どのように話すかは、何を話すかと同じくらい大切である。

・パスカルの言葉。なぜ他の人ではなく、よりによってこの私が病に蝕まれるのかという理由も同じ。そうでないこともありえた限りで、そもそも偶然なのだが、以後この事はその人にとって運命となる。

※よつば家族会(柏部会)

日時：九月二十四日十三時

会場：パレット柏 コミュニカ

※よつば家族会(流山部会)

会場：生涯学習センターA一〇一

日時：九月三十日 十時

☆発達障害者の「家族会」と

